資料４－２

最高裁裁判官選任に関する外国法調査について

１　目的

最高裁裁判官の選任等手続に関する外国法制や運用、その歴史的・社会的・文化的背景等につき、所要の調査・研究を行う。このための調査グループを設け、その調査結果は、当検討会及び内閣官房等における検討に活用するものとする。

２　グループ員（委員）

◎釜田　泰介　　当検討会委員・同志社大学法学部教授
伊藤　眞　　当検討会委員・東京大学法学部教授
田中　成明　　当検討会委員・京都大学法学部教授
初宿　正典（しやけ　まさのり）　京都大学法学部教授
浅香　吉幹（あさか　きちもと）　東京大学法学部助教授
勝山　教子（かつやま　みちこ）　同志社大学法学部助教授
毛利　透（もうり　とおる）　京都大学法学部助教授

（敬称略）

※　釜田委員には、とりまとめ役をお願いした。

３　日程面等

現在のところ、本年１０月の当検討会において口頭報告を行っていただき、その後報告書の形式にまとめていただくことを考えている。